

# 郷土に対する誇りや愛情の醸成される素地を養う歴史学習の在り方

—郷土教育の視点を重視した単元計画の活用を通して—

千葉市立みつわ台北小学校 教諭 高江洲 順平

## 1 はじめに

千葉市学校教育の課題「21世紀をひらく」において、郷土教育は、「郷土に誇りや愛情をもてるよう、本市の文化や歴史、伝統についての指導の充実を図る」ことを目標に掲げている。この目標を達成するために設定された方針『千葉開府900年』を見据え、社会科や総合的な学習等の時間を活用して郷土教育の充実を図ることが求められている」からも推察されるように、「千葉市らしさ」を形成する四つの地域資源の中でも、千葉氏については、重点的に取り扱いたい事項である。しかし、小学校第6学年における社会科の歴史学習で扱う歴史的事象は、郷土教育について深く学習することが難しいという課題がある。

筆者のこれまでの実践においても、千葉氏と関連する単元「武士の世の中へ」の学習に合わせて、千葉市総合政策局発行「千葉常胤公ものがたり」を児童に配付し、中央史と関連させて千葉市の歴史的事象を扱ったが、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養うことにつながらなかった。要因としては、千葉常胤という人物を捉えるだけになってしまい、児童が中央史と千葉市の歴史に関連を見いだしにくくなってしまっていたのだと考察される。

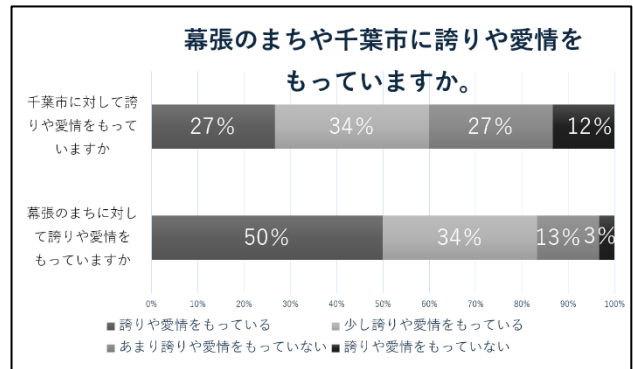
「武士の世の中へ」の単元で扱う時代は、千葉開府の時期と重なることや源頼朝や鎌倉幕府と千葉氏が密接に関わっていた時代であること、児童の住む幕張にも関連する史跡が残されていることという点において、中央史と千葉市の歴史を並行して学ぶことに適している単元である。並行して扱うことを通して、中央史、千葉市の歴史、さらに、幕張の歴史が関連付いたものだと児童が実感し、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養いたいと考え、本実践を行った。

## 2 実践の内容

### (1) 意識調査

本学年の児童は、第3学年の総合的な学習において、青木昆陽やさつまいもが幕張と深いつながりがあるこ

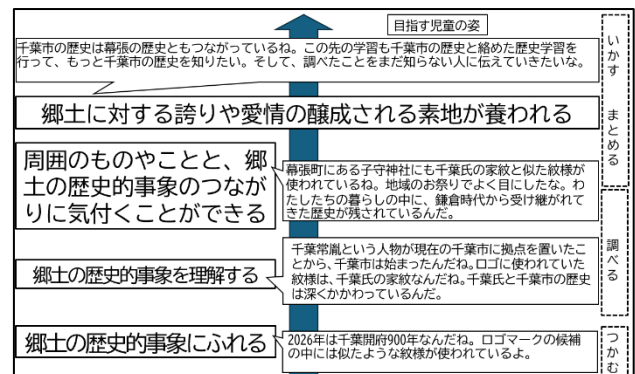
とを学び、本年度に至るまで毎年さつまいもの栽培を続けている。第4学年においては、本校の初代校長である石川倉治の功績について社会科の学習を中心に学んでいる。第6学年でも、総合的な学習で、幕張のまちの魅力を調べ、探究したり発信したりしたいという思いをもって学習を続けている。そのため、多くの児童が幕張地域に対しては誇りや愛情をもっているが、その対象を市に広げた際には、数値が低くなっていることがわかる。



【図1】実践前の誇りや愛着に関する意識調査の結果  
(2) 実践の目的

千葉市学校教育の課題「21世紀をひらく」では、児童の発達段階に応じた郷土教育を推進することが重要とされている。一方、小学校学習指導要領社会編では、第6学年で、地域教材に偏らない指導計画が求められている。これらを踏まえ、鎌倉時代の中央史を学びつつ、千葉市に対する誇りや愛情を育むことができる単元計画を作成することを目的とする。

### (3) 実践の方法



【資料1】本単元で目指す児童の姿

意識調査で「幕張のまちに対して誇りや愛情をもっている」についての数値が高まった要因として、これまで、幕張の歴史的事象や社会的事象を学び、関わることを通して、それらと、まちのものやことがつながっていると実感できているからだと考えた。そこで、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養うためには、千葉市の歴史と幕張の歴史につながりを見いだせるようにして、千葉市の歴史を身近なものだと捉えられるようにすることが必要だと考えた。そのために、[資料1]のような、学習が進むにつれて、様々な視点から歴史的事象に触れ、関わり続けていくことができる単元の流れと目指す児童の姿を設定し、それを基に単元計画を作成した。

小学校学習指導要領解説社会編では、本単元で身に付けるべき知識及び技能は「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解すること」「遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること」と示されている。そこで本単元で学習するべき内容を基に、単元計画のどこでどのように千葉氏を扱うかを明確することで、千葉開府の歴史を中央史や幕張のまちの歴史と関連付けて学び、千葉開府の歴史を学ぶ意義を感じられるようにした。導入では、中央史について児童が解決すべき課題をもつことができるように学習問題を設定し、付随して千葉氏について追究するサブテーマを設定することにより、児童が中央史だけでなく、千葉市の歴史にも目を向けて学習できる単元計画を立てた。

単元計画では、中央史と千葉氏を並行して学習する手立てとして、中心資料、補助資料を以下の三つに分類して用意した。

- ① 本時の目標を達成するために、千葉氏に関する資料を中心資料とし、中央史に関する資料を補助資料として扱う。
- ② 本時の目標を達成するために、中央史に関する資料を中心資料とし、千葉氏に関する資料を補助資料として扱う。
- ③ 千葉市の歴史を知るために、千葉氏に関する資料を補助資料として扱う。

本論における中心資料とは、児童が本時の目標を達成するために、特に重視する資料等である。補助資料とは、本時の目標を達成するために必要な中心資料以

外の資料等と定義した。

[表1] 単元計画

	時数	○学習活動 ・千葉氏に関する学習内容	資料
つかむ	1	○「千葉開府900年記念ロゴマーク候補作品」や年表から単元の学習問題を考える。 ・現在から約900年前、平野常重が現在の千葉市に移り住んできたことを千葉開府という。	①
		武士はどのように力をもち始め、世の中はどのように変化していったのだろうか。 ～なぜ900年前に千葉は開府し、その後発展していったのだろうか～	
調べる	2	○地方に住む武士の生活の様子を、想像図や千葉氏に関するポータルサイトなどから考える。 ・当時の千葉市付近は農業に適した土地で交通の要所だった。	③
	3	○年表等の資料から、平氏の政治の特徴を考える。 ・平常重(千葉氏)は平清盛と同じ平氏の武士であった。	③
	4	○頼朝に味方した関東の武士団の図や源平合戦の地図から、源氏がどのように平氏を倒したのか考える。 ・関東に拠点を置く千葉氏は、自分たちの領地を保証してくれる源氏に味方した。	①
	5	○鎌倉の地図や御恩と奉公の関係などの資料から、鎌倉幕府の政治について考える。 ・千葉と鎌倉は鎌倉街道で結ばれ、交通の要所として発展していった。	②
まとめる	6	○元軍との戦いに関する資料等から御家人が戦った理由や鎌倉幕府がその後どうなっていくのか考える。 ・千葉氏も元寇で戦った。	③
	7	○武士の世の中への移り変わりについて、調べたことを関連付けながらまとめる。 各地で武士が力をもち始め、平清盛によって武士による政治が始まり、その後、源頼朝が御恩と奉公という主従関係によって武士を統率し鎌倉幕府を開いた。しかし、元寇がきっかけで、主従関係は崩れていった。	
いかす	8	・単元のサブテーマに対する考えを記述する。 武士が力をもち始めたころ、千葉氏は現在の千葉市付近に拠点を移した。平氏出身の千葉氏は自分たちの領地をより保証してくれる源氏に味方し、鎌倉幕府と御恩と奉公の関係で結ばれた。千葉は鎌倉に近く、街道で結ばれていたため、その後も発展した。	
		・単元で学習したことを振り返り、感想を書く。	

また、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養うためには、千葉市と千葉氏の関係について理解している必要があると考えた。そこで、サブテーマのまとめの記述について、A～Cの評価基準を作成し、評価を行った。

[表2] 評価基準

	評価基準
A	以下3つに関する記述があること (ア) 千葉を開府した一族の名称(人物名)が記述されている。 (イ) 源氏と平氏の相互関係、武士の主従関係的な視点から千葉氏が源氏に味方した理由が記述されている。 (ウ) 鎌倉との位置関係的な視点から、千葉開府後、発展した理由が記述されている。
B	上記3つのうち、2つに関する記述がある。
C	上記3つのうち、記述が1つ以下である。

#### (4) 実践の内容

##### ①つかむ(第1時)

導入で「千葉開府900年記念ロゴマーク候補作品」

に対して、千葉市の小学生に向けて投票が呼びかけられていることを知らせ、六つのロゴマークから共通している点や気になっている点を話し合った。特に、900の文字が星と月で構成されているデザイン(妙見信仰)や武士の甲冑が描かれているデザインが児童の目を引いた。900年前にどのような出来事があったのか年表で確認した際、ある児童が「これから学ぶ時代の様子を調べていくと、千葉開府の歴史を知ることにもつながりそうだ。」と述べたところから千葉開府について、もっと調べてみたいという思いが喚起され、単元の学習問題とサブテーマを設定した。

年表を見て、武士が急に出てきて、争いが起こっていった理由を知りたいと思った。千葉市は、自分の住む市なので、この時代になぜ生まれたのかについて、もっと知りたい。

【資料2】千葉開府の歴史への関心が高まった児童の記述  
②調べる(第2時～第6時)

第2時は、武士の屋敷と貴族の屋敷を比較して、当時の武士の生活の様子について調べる時間を設定した。その際、千葉開府は、千葉氏が千葉市付近に本拠を移したことに始まることや、なぜ千葉市付近が選ばれたのかについて理解できるようにした。

武士は、自分の領地を守るために武芸を磨き、貴族の下で働いて力を付けていった。この時代の千葉市(付近)は農業しやすく、交通の要所だったので、平常重はこの地を本拠地にした。

【資料3】当時の千葉市について記述した児童の学習のまとめ  
第3時は、年表を用いて、平氏政権の盛衰について学習した。その際、千葉氏が、平氏一門であることを理解できるようにした。

平清盛は今の神戸市をつくり、平常重は今の千葉市をつくったことがわかった。どちらも天皇の子孫で平氏である。

平氏をひいきしている清盛に、東国の源氏は不満が高まっていそう。平氏の千葉氏は源氏と戦いになると思う。

【資料4】千葉氏が平氏であることに触れた振り返りの記述  
第4時は、源頼朝が源平の合戦にどのようにして勝利したのか調べる時間を設定した。第4時の学習の中で、学校に配付されている「千葉常胤公ものがたり」を児童に紹介したところ、児童の多くが関心を示した。また、幕張町の史跡である馬加康胤首塚や子守神社と千葉氏の関係について1人1台タブレットPCを用いて調べる姿が見られ、目指す児童の姿における「生活

の中で、学んだ歴史的事象と関わっているものがあることに自ら気付く」児童が増えた。

子守神社の紋様は千葉氏の家紋(に似たもの)だと気付いた。お祭りのときに見ていたけど、これまではあまり気にしていなかった。

幕張にある首塚は千葉氏のものだった。これまでは、心霊スポットだと思っていたけど、学習を通して、首塚は千葉市の歴史を今に伝える大切な場所なのではないかと思った。歴史を知ることによってイメージが変わった。

【資料5】千葉市の歴史的事象と幕張の歴史につながりを見いだした児童の振り返り

第5時は、御恩と奉公の関係や鎌倉幕府の支配体制について学習した。鎌倉街道で千葉と鎌倉が結ばれていたことを示す地図を提示し、千葉と幕府のある鎌倉の地理的なつながりに気付くことができるようにした。

第6時は、元寇後、幕府の支配体制がどのように崩れていったのかを調べる時間を設定した。その際、千葉氏ポータルサイトを用いて、千葉氏の子孫たちも元寇の際に出陣していたことを理解できるようにした。

③まとめる・いかす(第6時～第7時)

第6時には、単元の学習問題に関するまとめ、第7時には、サブテーマに関するまとめを行い、児童の記述からサブテーマのまとめの達成率を調査した。

【表3】評価基準の達成率

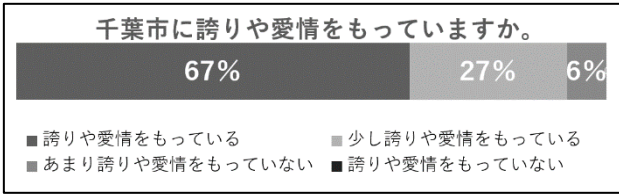
	A	B	C
達成率	26% (8人)	67% (20人)	7% (2人)

評価基準別にみると、[表2 (p.3-2)]の(ア)(イ)については、多くの児童が記述できていた一方で、(ウ)に関する記述が少なかった。中心資料として扱った(ア)(イ)に関しては、多くの児童が理解できていたが、補助資料として扱った(ウ)に関しては理解が不十分であったといえる。

鎌倉時代や千葉市の歴史について学習する前は、子守神社やお祭りの提灯の模様を気にしたことがなかったけど、900年前から続く歴史がいろいろなところに残されているとわかって、すごいなと思った。自分の親は幕張出身だけど知らないと思うから、教えたいと思った。次に学習する時代のころの千葉市はどんな感じなのか調べてみたい。

【資料6】千葉市の歴史を幕張の歴史だと捉えた児童の記述

## (5) 児童の変容



【図4】実践後の誇りや愛情に関する意識調査の結果

本研究の実践前後の意識調査を比較すると、千葉市に対する誇りや愛情をもっていますかという質問に対して、「誇りや愛情をもっている」と回答した児童が大きく増加していることがわかる。特に、A評価の8人は全員が「誇りや愛情をもっている」と回答していた。また、C評価だった2人は、どちらも「あまり誇りや愛情をもっていない」と回答していて、学習内容の理解と意識調査の結果につながりが見られた。

A 評価	今まで知らなかった千葉市の歴史を知ることができた。これから学習する時代でも、千葉市はどうだったか調べていきたい。歴史も千葉市の魅力だと知ったので、学んだことを総合で行っている幕張の魅力伝える活動にも生かしたい。
B 評価	将来、自分の子どもが生まれたときには、自分の住んでいる千葉市の歴史を教えることができる人になりたいと思った。過去のことを未来に知らせることも役割の一つだと考える。
C 評価	鎌倉時代を学習して、鎌倉時代に千葉市ができたということがわかってよかった。

【資料7】単元の終末における評価別抽出児童の振り返り

【資料6 (p. 3-3)】【資料7】の振り返りの記述にあるように、単元の後半から終末にかけて、児童が学習した内容を他者に伝えたいという思いやもっと千葉市（の歴史）について知りたいという記述が見られるようになった。また、千葉市の歴史と幕張を同じように自分の住んでいる場所だと感じて、関心が高まっている様子が記述されていた。このような結果から、単元計画を工夫して、千葉市の歴史を中央史や幕張のまちの歴史と関連付けて学ぶことができると、より伝えたい、調べたいという思いは強まっていき、さらに千葉市への関心も高まっていくであろうと考察した。このような学習を積み重ねることで、郷土に対する誇りや愛情をもつ児童を育成していくことができると考える。

## 3 実践のまとめ

### (1) 成果

今回は、郷土教育の視点から千葉氏を社会科の単元計画に組み込むことで、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養えるか検証した。

郷土教育の視点から、千葉氏という歴史的事象を社会科の単元の中に組み込んでいくことで、児童が千葉市の歴史的事象をより身近にあるものやことだと気付くようになり、自分の市のことを誰かに伝えたいという思いやもっと調べたいという思いをもつことができた。千葉市の歴史に対する関心の高まりこそが、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地であると考えられる。

また、評価基準を明確にして見取りを行うことを通して、千葉市の歴史に対する理解が深まると、誇りや愛情が醸成される素地はより養われやすいことが明らかとなった。

### (2) 結論

このような結果を踏まえ、第6学年の歴史学習において、千葉市に対する誇りや愛情の醸成される素地を養うためには、千葉市に関する社会的事象をどこでどのように扱うか明確にした単元計画を作成し、評価基準を明確にして見取りを行うことが大切であると提言したい。

### (3) 課題

歴史的事象を一つ扱っただけでは、千葉市に対する誇りや愛情をもたせることは難しい。小学校6年間を通して、様々な千葉市の社会的事象や歴史的事象を扱い、ただ内容を理解するだけではなく、周囲のものやことと、郷土の歴史的事象のつながりに気付くことができる活動を積み上げていく必要があると考える。そのために、社会科の一単元だけでなく、教科等横断的な学習を通して、千葉市を題材とした学習内容を扱っていく必要がある。

#### 【主な引用／参考文献等】

- ・千葉市教育委員会『21世紀を拓く』2024
- ・文部科学省『小学校学習指導要領社会編』2018
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会』2020
- ・澤井陽介 中田正弘 加藤寿朗 宗實直樹『これからの社会科教育はどうあるべきか』東洋館出版社2023